

## 子育てひろば研修セミナー白老開催 報告

【テーマ】 みんなでつくろう！ひろげよう！  
子どもが育ち・親がいやされ・地域がつながる子育てひろば

### 【終了のごあいさつ】

“北海道にある元気まち”白老町において、「子育てひろば研修セミナー」が開催されました。人口2万人程、交通の便も悪い白老町での開催に不安がありましたが、当日は151名の参加をいただき、ありがたい気持ちで一杯です。

北海道ではなかなか直に聞く機会の少ない国の行政の考え方、各地で先進的に活動・研究されている熱意溢れる登壇者の実践に、多くのことを学びました。会場ではプログラムが進行するにつれ、参加者の深いうなづき、自省の笑い、共感の涙などが見られ、感動の多い研修会になりましたことに深く感謝いたします。

セミナーの準備・当日の運営では、至らぬことの多かった実行委員・現地スタッフでしたが、多くの方のご協力をいただき終了することができました。本当にありがとうございました。

- 開催日：平成20年9月20日(土) 10:00～16:45
- 会場：白老町中央公民館(コミュニティセンター)2階
- 主催：財団法人子ども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援：厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・北海道・白老町  
白老町教育委員会・(社福)白老町社会福祉協議会
- 協力：「子育てひろば研修セミナー白老開催」実行委員会  
NPO法人お助けネット

### 【参加者数】151名

(行政52名、NPO・任意団体64名、その他団体・企業18名、その他17名)

### 【プログラム趣旨】

北海道では現在、地域子育て支援拠点事業として、ひろば型25カ所、センター型190カ所があります。また、市民団体や児童関連施設等が開設する「子育てひろば」や地域の取り組みとして、子育てサロン、せわすきせわやき隊の活動など、さまざまな「子育てひろば」が生まれています。

本セミナー全体会では、立場や形態を超え、支援機関や支援者がゆるやかなネットワークでつながり、「子育てひろばのミッション(目的・意義)」を確認することを目的とします。

また分科会では、「市民の力を生かした子育てひろば」を増やすための手法、事業内容や運営方法、親子への寄り添い方などを学び合い、それぞれの地域での活動がより充実発展することを目指します。

## 【当日の様子】

### ★ 挨拶

\*主催者挨拶 財団法人こども未来財団 岡林 一枝さん



\*開催地挨拶  
白老町教育委員会教育長 白崎 浩司さん

\*実行委員長挨拶  
NPO 法人お助けネット代表 中谷 通恵さん



### ★ プログラム1 基調報告

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省少子化対策企画室 池上 栄志さん

今年4月より少子化対策企画室計画係長に就任された池上さんより「少子化の背景」「地域子育て支援拠点事業の説明」「新しい地域子育て支援の展開に向けた課題」についてデータを示しながら詳しいお話がありました。



### ★ プログラム2 パネルディスカッション

「みんなでつくろう！ひろげよう！

子どもが育ち・親がいやされ・地域がつながる子育てひろば」

コーディネーター	NPO 法人子育て応援かざぐるま 山田 智子さん
パネリスト	日本福祉大学教授 渡辺 顕一郎さん
	元小学校教員(白老町在住) 野口 良行さん

最初に、コーディネーターの山田さんから、「子育てひろばの意義・目的を確認する」というパネルディスカッションの趣旨について説明がありました。

次に、渡辺先生から、子ども家庭福祉の視点での研究事業やご自身のNPO活動でのご経験から、「なぜ地域で子育てを支える必要があるのか」という原点に立ち、地域がつながる、地域をつなぐという働きに着目して、子育てひろばの総論についてのお話がありました。



### ●渡辺先生のお話「地域がつながる、地域をつなぐ“子育てひろば”」

親・家庭の子育て力を高めると同時に、地域のタテ・ヨコのネットワークの再生に努め、地域に備わる子育て力を高めるような支援が必要である。また、0～2才児の8割以上の子

どもは家庭で育てている現実を踏まえ、子どもの発達をうながすためには、まずは子どもの養育者であり、最も身近な大人である親が、しっかりと子どもや子育てに向き合えるように親を支援していく必要がある。

つどいの広場は、利用者の子育てに関する知識・情報を高め、ストレスの軽減や孤立感の解消等、一定の効果をもたらす他、親同士の支え合いや助け合いの場としての機能も期待できる。スタッフは、利用者同士をつなぐ（ピアサポート）、利用者を支援につなぐ、利用者と地域をつなぐ等、“つなぐ”という役割が大きく求められるが、その際に大切なことは、子育て中の親を“弱者”扱いするのではなく、利用者の潜在的な力を引き出すようなかわりを大切にするることである。



もう1人のパネラーである野口先生は、長い教員生活や研究活動と様々な地域の活動を通して、子どもの育ち、教育の視点から、子どもは育てるのではなく「子どもは自ら育つ」と考えることの大切さ、今の競争原理社会の危うさ、共生原理社会への転換を説かれました。

#### ●野口先生のお話「子どもは自ら育つ」

- ・ 子どもは思う通りには育たない、親（家族・教師・地域の人）がしているように育つ
- ・ 「よい子、できる子、強い子」にと思うあまり、子どもの成長や発達をゆがめる現実がある
- ・ 心の基本形は乳幼児期に育つ
  - 乳幼児期は「抱っこ、なでなで、甘えさせ、楽しい語りかけ」
  - 学童期は「はぐくみ、いやし、ほほえみを」「教え、導き、感動を与える」
  - 青少年期は「見守り『承認』『励まし』」がそれぞれ大切であり、以上の対応を損なうと、人に対する「不信感」「憎悪感」「自己否定感」に苛まれる
- ・ 子どもが育つための豊かな環境づくり（人的環境、自然環境、文化環境）が求められる
- ・ 人は本来ものを分け合って生きるものであり、助け合い、分け合い、違いを認め合い、責め合うのではなく許し合って生きてきた。「競争原理」から「共生原理」へ転換するべきで、ひろばがそのような場として生かされて欲しい。



会場は、お2人のお話を一言も聞き漏らしたくない！という熱気と緊張感に包まれていました。



ひろばを「子どもが育ち・親がいやされ・地域がひろがる子育てひろば」としていくために、今日のお話を聞いたそれぞれが現場に帰って明日からの実践にどう活かすのかが問われているのかもしれない。

## ★ プログラム3 分科会

### ◆分科会① 行政と市民が協働でつくる子育てひろば

コーディネーター NPO 法人お助けネット 中谷 通恵さん

事例報告 千歳市保育課保育係係長 小島 一則さん

白老町長 飴谷 長蔵さん

NPO 法人子育てネットくすくす 草薙 めぐみさん (香川県)



分科会1では、3つの事例報告をもとに、行政と市民が協働し、市民の力を生かしてつくるひろばの意義・手法・課題を考えました。

「協働」することが目的ではなく、市民にとって質の高い子育て支援事業が展開されるから、「協働」に意味があることが確認できました。

〈普通寺市のくすくす草薙さんの報告から〉 市民(NPO)の側は、当事者性や発想、先駆性や費用対効果が高いという利点を研鑽しながら伸ばし、かつ、行政の事業への理解を深めることも必要だと教えられました。

〈千歳と白老の行政の報告から〉 市民の力を生かすためには、研修や交流などを継続して行い「行政が市民の力を生かしたい」ことを広めると共に、従来の型通りの行政手法ではなく、職員の配置や市民への委託、計画の段階からの住民参加など、地域にあった手法を工夫し、市民の力を発揮してもらえるよう努力すべきことが確認されました。

### ◆分科会② 子育てひろばの活動が充実・発展するために

コーディネーター 武蔵女子短期大学准教授 梶井 祥子さん

事例報告 子育てコミュニケーションスペース「る・る・る」 松実 とよ実 さん

NPO 法人ワニワニクラブの仲間達の会 吉田 淑恵さん

元浦河町子育て支援センター主任相談員 吉村 明美さん

分科会2では、前半を「人材育成・企画力」について、後半を「マネージメント・資金力」についてという時間配分で情報交換を行いました。

室蘭市「ワニワニクラブ」の吉田淑恵さんは、

25年にも亘って子育て支援活動を実践されている

ベテランです。蓄積されたノウハウを、出席者のために

惜しみなく披露して下さいました。

中標津町「る・る・る」の松実とよ美さんは仲間とともに

独創的なネットワーク活動を展開し、異世代をつなぐ活動

まで幅広く手掛けています。

浦河町の吉村明美さんは、行政の立場から住民のニーズを

すくいあげ、子育てサポートの仕組みを立ち上げてこられました。

経験豊富で魅力的な登壇者が揃い、大いに盛り上がりました。





### <人づくりのための仕掛け>

「ワニワニクラブ」では、利用者を活動に巻き込んでいく仕掛けとして「利用者会議」を開いています。子連れの会議ですから多少騒がしさもありますが、利用者の側に「自分たちも運営に参画している」という主体的な意識が芽生えてくることに繋がっています。

「る・る・る」では、利用者同士のコミュニケーションを確保する空間を提供することで、自然発生的な仲間作りを促しています。「る・る・る」を拠点として、ニーズを共有する仲間を自ら募り、いくつもの活動グループが立ち上がっていきました。

行政の立場で子育て相談を担当していた吉村さんは、住民の相談にきめ細かくレスポンス（応答）し続けることで信頼関係を構築していきました。常に住民のニーズに目配りし、必要な情報を発信することで「人づくり」を仕掛けてきたわけです。

### <資金を創造するために>

各種助成金には根気強く応募すること、経験者のノウハウを集めること、利用者やボランティアからも必要な経費は頂くこと、講習会や研修などを企画して資金につなげること、施設の見学料を頂くこと、など知恵と工夫が報告されました。

最後に「なぜ、この活動を続けていけるのか」を伺ったところ、「人が好きだから」「つながっていくことが好きだから」という共通した答えが返ってきました。柔軟性と寛容性に富み、かまわず、しなやかに活動を続けている登壇者の皆さんに多くのことを学びました。



## ◆分科会③異世代が支える・異世代がつなぐ子育てひろば

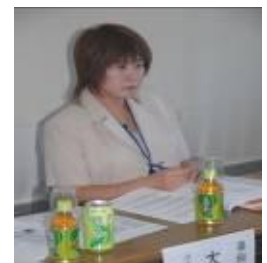
コーディネーター 北海道胆振保健福祉事務所保健福祉部 徳光 秀樹さん  
事例発表 登別社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係 坂本 大輔さん  
小樽市奥沢保育所地域子育て支援センターげんき保育士 大泉 ゆきえさん  
助言者 元小学校教員(白老町在住) 野口 良行さん

分科会3では世代を超えた様々な人達との地域交流について、社協のサポートにより地域のボランティアが子育てサロンを運営している登別、地域の子育て支援ボランティアや高齢者の団体が参加して活発な取り組みを行っている小樽の2つの活動事例の報告の後、参加者からも取り組み事例を発表してもらい、地域で支え合う、地域がつながり合う場としての「ひろば」について考えました。

### <参加者からの意見・論点>

- ・支援者として参加しているボランティアにとっても楽しみや生きがいになっている。
- ・交流を行った高校生から職業選択の参考となったという感想があった。
- ・地域の方をもっと取り込んで実施したいが、メンバーの集め方について教えてほしい。
- ・ボランティアを養成する際には、明確な目的を持った研修会や講座の開催が必要。

★助言者の野口さんからは、いつでも子どもを迎えてくれる人的な環境を整えることが子どもの育ちに大切であることなど、アドバイスがありました



#### ◆分科会④スタッフ集まれ！本音で語ろう、喜び・悩み・やりがい

コーディネーター	NPO 法人子育て応援かざぐるま	山田 智子さん
ファシリテーター	むかわ町おひさま広場	大久保 真由美さん
	NPO 法人お助けネット	西村 篤子さん
	ねっこぼっこのいえ	小林 真弓さん
	NPO 法人ワニワニクラブ の仲間達の会 下澤 和枝さん	

分科会4では、7～8人の小グループに分かれ、「広場として大事にしていること」「うれしかったエピソード」「最近感じていること・悩んでいること」などを出し合いました。

##### <まとめ>

- \* どの広場でも気軽に来られる雰囲気づくりを心がけているが、広場のスタッフの大切な役割として、親の話を聞くということが大きな役割である。しかし、ただ単に聞くということではなく、心を傾けながら、身内になったつもりで話を聴くことが大切である。
- \* 自己覚知（自分の価値観）を持つことが大切である。
- \* 親の支援（特に母親）をすることにより、子どもの支援につながっていくことである。
- \* 母自身も、困ったときに「誰かに助けてもらっていい！」という気持ちを持ってもらい、みんなに支えられたという気持ちから、自分にも何ができることがあるだろうかという「支えあうリレー」が広場で展開できることを願う。



#### ★ プログラム4 全体会

コーディネーター	日本福祉大学教授 渡辺 顕一郎さん
分科会①報告	NPO 法人お助けネット 中谷 通恵さん
分科会②報告	武蔵女子短期大学准教授 梶井 祥子さん
分科会③報告	北海道胆振保健福祉事務所保健福祉部 徳光秀樹さん
分科会④報告	むかわ町おひさま広場 大久保 真由美さん

全体会では、4つの分科会の報告の後、コーディネーターの渡辺先生より、今セミナーの総括をしていただきました。

##### <渡辺先生のまとめ>

- ・ひろばでおしゃべりに夢中になっていたり、ヘビークレマーとみられる人の、そうならざるを得ない背景に思いを馳せられる支援者でいたい。解決には他の親の力も借りよう。
- ・NPOと行政と専門職は、存在意義から考えて対立しやすいものである。だからこそ「お互いの限界を認識し、補完し合う」「立ち位置が違ってそれぞれが活動の意義を明確にする」「対立は利用者にとって何ももたらさないことを自覚する」ことが大切である。そのためにも、このような研修の機会を通じて自己研鑽・自己覚知に努めたいですね。

